

2009年7月16日
株式会社メルコホールディングス
マイクロソフト コーポレーション

メルコグループとマイクロソフト、バッファロー製品に搭載のLinuxソフトウェアについて特許に関する契約を締結

～メルコグループの顧客は、Linuxおよび関連オープンソースソフトウェアを稼働する機器の使用について特許特約の適用を受けることに～

マイクロソフトコーポレーション (Microsoft Corporation、本社：米国ワシントン州レッドモンド) と株式会社メルコホールディングス (株式会社バッファローのグループ親会社 本社：名古屋市) は、メルコホールディングス並びに傘下のバッファロー及びグループ企業 (以下メルコグループ) の製品に搭載するLinuxおよび関連オープンソースソフトウェアの使用について特許特約を適用するという契約を締結しました。本契約の締結により、該当製品購入ユーザーが安心して利用を続けることができます。

具体的には、この特許特約は、メルコグループが製造・販売するLinuxを搭載したバッファロー製品のネットワーク接続型ハードディスク (NAS) 機器 やルーターに適用されます。契約の内容は非公開ですが、両社は、契約の対価はメルコグループからマイクロソフトへ支払われるロイヤルティであることを示唆しています。

マイクロソフトの知的財産&ライセンスグループのジェネラルマネージャーであるデイビッド ケーファー (David Kaefer) は次のように述べています。「当社とメルコグループが契約を締結できたことを大変うれしく思っています。多くの企業がLinuxベースの製品を対象とした同様の契約を締結してきました。これは、当社が数十年にわたりオペレーティングシステムの領域における研究開発に注力してきたこと、そして、その結果として高品質の特許ポートフォリオを構築できたことの表れです。」

LinkStationなどのネットワーク接続型ハードディスク (NAS) 機器、そして、Air Stationなどのルーター機器の製造と流通においてバッファローはグローバルなリーダー企業です。また、PC周辺機器を製造している、マイクロソフトのグローバルなパートナー企業でもあります。

バッファローの取締役 中井 一は 次のように述べています。「本件に関してマイクロソフトと協力できたことを大変嬉しく感じております。当社はNAS 事業においてWindows Storage Servers の採用を拡大しようと計画していますが、それと同時に、オープンソース/Linuxの組み込み機器においてIPに関する適切な保護が得られることを望んでいました。マイクロソフトと協力して現実的なビジネス上の解決策に至ることで、当社のお客様に対して適切なIP上の保護を提供することができ、GPLv2への完全準拠という義務も果たすことができました。」

■IPの協業に対するマイクロソフトの取り組み

今回の特許に関する契約は、知的財産が、健全かつ活気に満ちたITエコシステムの実現に重要な役割を果たすことを示す事例の一つです。自社のIPライセンス プログラムを2003年12月に開始して以来、マイクロソフトはこれまでに500件以上のライセンス契約を締結してきましたが、今後とも、お客様、パートナー企業並びに競合他社が、マイクロソフトのIPポートフォリオを利用できるようにするためのプログラムを実現していく方針です。マイクロソフトのIPライセンス プログラムは、マイクロソフトが積み重ねてきた膨大な研究開発投資、ならびに成長を続ける広範な特許ポートフォリオやIPポートフォリオへのアクセスを可能にすることを目的として作成されたものです。最近では、マイクロソフトは、組み込み機器向けにLinuxを使用するLGE、Samsung Electronics Co. Ltd.、富士ゼロックス株式会社、京セラミタ株式会社、TomTom International BV、ブラザー工業株式会社などの大手企業とも特許に関する契約を結んできました。

マイクロソフトのライセンスプログラムに関する詳細情報は下記をご参照ください。
<http://www.microsoft.com/iplicensing> (英語)

■報道関係者からの問い合わせ先

株式会社メルコホールディングス
経営管理部 松尾
TEL : 052-619-7221
電子メール: ir@melcoinc.co.jp

マイクロソフト株式会社
広報部 石井
TEL : 03-4523-3210 (代表)
電子メール: mskkpr@microsoft.com